

浜銀総研 News Release



横浜銀行グループ

2022年9月14日

感染症対策と経済活動の両立で、県内の中堅・中小企業の景況感は改善

—— 企業経営予測調査2022年9月調査結果 ——

要 旨

神奈川県内中堅・中小企業の2022年9月末時点における業況判断D.I.（全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%）は▲20と前回6月調査から4ポイント上昇した。感染症対策と社会経済活動の両立により、県内の中堅・中小企業の景況感は前回6月調査時点での予想に沿って改善しつつある。

業種別の業況判断D.I.は、製造業が▲24となり前回6月調査から7ポイント上昇、非製造業では▲19となり同1ポイントの上昇となった。製造業では、金属製品、鉄鋼・非鉄、電気機械、輸送機器などで景況感の良化がみられる一方で、電子部品・デバイス、食料品などで景況感が悪化した。また、非製造業では小売の景況感が大きく良化した一方で、不動産、サービス、卸売、飲食店・宿泊の景況感が悪化した。業種ごとに景況感はまだら模様となっており、経済活動の再開に伴う業況の改善に対して、市況高騰の影響を強く受けた業種での業況悪化が観察される。

3か月先（2022年12月末）の予想（全産業ベース）は▲17と、9月末実績比3ポイントの上昇が見込まれている。製造業、非製造業ともに、総じて経済活動の再開、活性化によって業況の改善が見込まれている。ただし、その中では食料品や不動産、サービスで厳しい状況が続く見込みとなっているほか、電気機械や小売でも業況の再度の悪化が予想されている。業種によるまだら模様感が一層強まる気配である。

なお、市況高騰に関して、仕入価格動向D.I.及び販売価格動向D.I.（それぞれ全産業ベース、価格が「上昇」-「下落」、回答社数構成比、季節調整済、%）をみると、仕入価格動向D.I.については、前回6月調査の+76に対して今回9月調査では+73と3ポイント低下しており、ピーク感が出つつある。他方、販売価格動向D.I.は今回9月調査でも6ポイント上昇し+29となった。水準は仕入価格動向D.I.に比べ低いものの、価格転嫁の動きが続いている。

【本件についてのお問い合わせ先】
（株）浜銀総合研究所 調査部 城 浩明
TEL. 045-225-2375

企業経営予測調査

2022 年 9 月実施

四半期別(第 205 回)結果

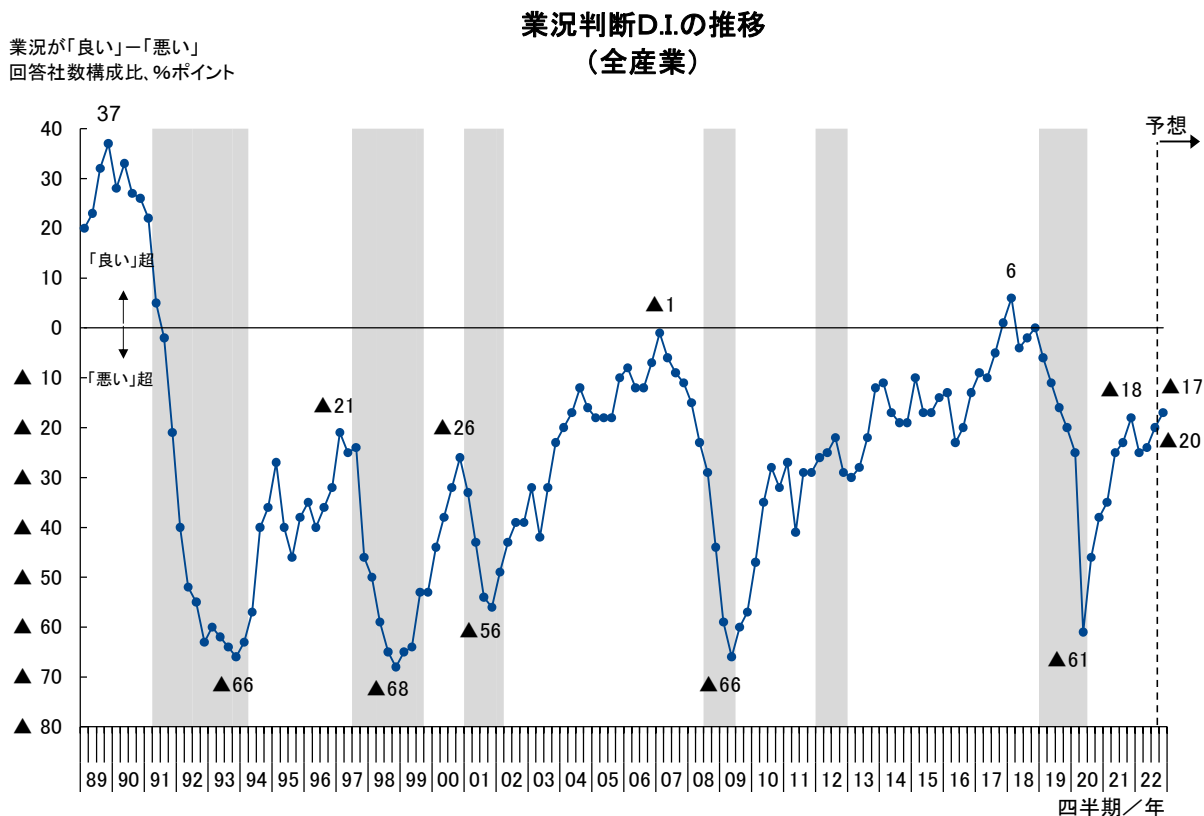
対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした 1,104 社
(うち製造業 365 社、非製造業 739 社)
回収率 32.1% (回答企業 354 社、うち製造業 122 社、非製造業 232 社)

業況判断 D.I.

(2022年9月末)

神奈川県内中堅・中小企業の2022年9月末時点における業況判断D.I. (全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%)は▲20と、前回の2022年6月調査から4ポイント上昇した。7月から8月にかけて県内における新型コロナウイルスの陽性者数は過去最高を更新した。その後、足元で陽性者数は落ち着きつつあるものの、なお高水準で推移している。また、素材市況の高騰や為替の円安も続いており、経済環境の不透明感は払しょくされていない。しかし、感染症対策と社会経済活動の両立により、県内の中堅・中小企業の景況感は前回6月調査時点での予想(9月予想▲20)に沿って改善しつつある。

今回の業況判断D.I.を製造業・非製造業別にみると、製造業は▲24と前回6月調査から7ポイント上昇した。業種別には、金属製品(前回調査：▲32→今回調査：▲6)、鉄鋼・非鉄(同：▲40→▲25)、電気機械(同：▲14→0)、輸送機械(同：▲54→▲48)などで景況感が良化した一方で、電子部品・デバイス(同：+71→+17)や食料品(同：0→▲43)などで景況感が悪化した。銅やアルミ、鉄鋼などの金属市況の上昇が一服し



つつあり、素材産業中心に景況感の改善がみられる一方で、穀物や油脂などの原材料価格の高騰から食料品の景況感が大きく悪化した。また、これまで回復をけん引してきた電子部品・デバイスにも変調がみられる。

他方、非製造業の業況判断D.I.は▲19となり、前回6月調査から1ポイントの上昇にとどまった。新型コロナウイルスの新規陽性者数が高水準で推移するなかでも、小売（同：▲20→+3）の景況感が大きく良化した一方で、不動産（同：+9→▲20）、サービス（同：▲8→▲25）、卸売（同：▲26→▲32）、飲食店・宿泊（同：▲53→▲56）の景況感が悪化した。これらは、原材料価格等の市況高騰の影響が大きいと考えられる。

製造業、非製造業を問わず景況感はまだら模様となっている。経済活動の再開に伴う業況の改善に対して、市況高騰の影響を強く受けた業種での業況悪化が観察される。

（3か月先の予想）

2022年12月末時点の業況判断D.I.（全産業ベース）は▲17と、9月末実績から3ポイント上昇する見込み。製造業、非製造業の別では、製造業は▲17と9月末比7ポイントの上昇、非製造業も▲17と同2ポイントの上昇が、それぞれ見込まれている。

製造業、非製造業ともに、総じて経済活動の活性化によって業況の改善が見込まれている。その中で、今回9月調査の実績で大きく景況感が悪化した製造業の食料品（9月実績：▲43→12月予想：▲43）や、非製造業の不動産（同：▲20→▲28）、サービス（同：▲25→▲28）などにおいては、厳しい状況が続く。また、9月調査で改善した電気機械（同：0→▲25）や小売（同：+3→▲14）も景況感が悪化する予想となっている。先行きについては業種によるまだら模様感が一層強まる気配である。

足元の業況判断 D.I.と3か月先の予想

（業況判断D.I.：業況が「良い」―「悪い」の回答社数構成比、%ポイント）

	2021年 3月末	2021年 6月末	2021年 9月末	2021年 12月末	2022年 3月末	2022年 6月末	2022年 9月末	2022年 12月末 (予想)
全 産 業	▲ 35	▲ 25	▲ 23	▲ 18	▲ 25	▲ 24	▲ 20 (▲ 20)	▲ 17
製 造 業	▲ 41	▲ 22	▲ 20	▲ 16	▲ 29	▲ 31	▲ 24 (▲ 26)	▲ 17
一般機械	▲ 29	▲ 26	▲ 17	▲ 11	▲ 27	▲ 38	▲ 36 (▲ 38)	▲ 23
電気機械	▲ 45	▲ 38	▲ 29	▲ 20	▲ 27	▲ 14	0 (▲ 14)	▲ 25
電子部品・デバイス	▲ 10	38	13	60	50	71	17 (57)	33
輸送機械	▲ 38	▲ 19	▲ 40	▲ 34	▲ 60	▲ 54	▲ 48 (▲ 39)	▲ 22
食料品	▲ 56	▲ 22	0	20	▲ 50	0	▲ 43 (▲ 29)	▲ 43
鉄鋼・非鉄	▲ 14	44	13	0	0	▲ 40	▲ 25 (▲ 30)	▲ 25
金属製品	▲ 37	▲ 24	▲ 12	▲ 29	▲ 25	▲ 32	▲ 6 (0)	0
非製造業	▲ 32	▲ 27	▲ 24	▲ 20	▲ 23	▲ 20	▲ 19 (▲ 16)	▲ 17
建設	▲ 13	▲ 16	▲ 20	▲ 13	▲ 11	▲ 24	▲ 14 (▲ 21)	▲ 5
不動産	▲ 22	▲ 17	▲ 19	5	0	9	▲ 20 (0)	▲ 28
運輸・倉庫	▲ 35	▲ 27	▲ 13	▲ 45	▲ 30	▲ 28	▲ 10 (▲ 24)	▲ 5
卸売	▲ 50	▲ 23	▲ 9	▲ 45	▲ 35	▲ 26	▲ 32 (▲ 24)	▲ 22
小売	▲ 31	▲ 31	▲ 34	▲ 15	▲ 29	▲ 20	3 (▲ 11)	▲ 14
飲食店・宿泊	▲ 79	▲ 82	▲ 75	▲ 44	▲ 83	▲ 53	▲ 56 (▲ 35)	▲ 50
サービス	▲ 37	▲ 32	▲ 26	▲ 9	▲ 8	▲ 8	▲ 25 (▲ 5)	▲ 28

注：カッコ内は前回2022年6月調査（確報値）時点における2022年9月末予想である。データは9月13日速報値。

なお、回答企業数が少ない業種は表示していない。

(仕入価格動向 D.I.にピーク感が出ている)

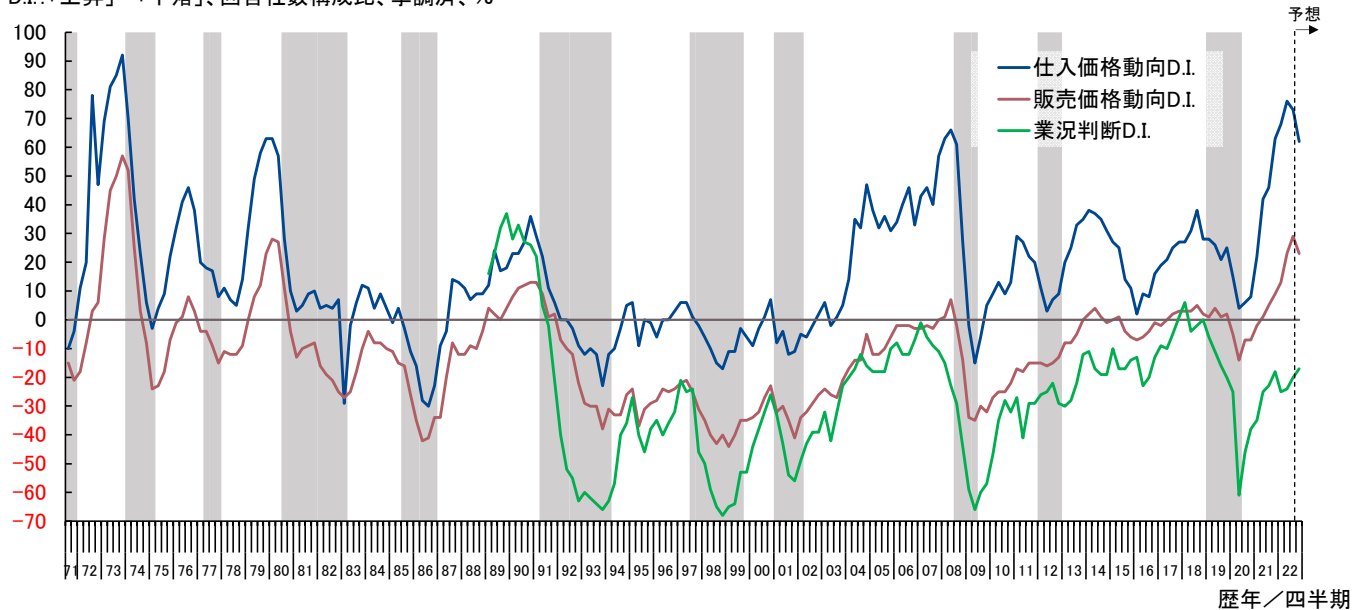
最後に、2022 年 3 月調査から当速報で紹介している仕入価格動向 D.I.及び販売価格動向 D.I.（それぞれ全産業ベース、価格が「上昇」-「下落」、回答社数構成比、季節調整済、%）の動きについて変化が見られるのでコメントを追加する。

今回 9 月調査では仕入価格動向 D.I.にピーク感が出ている。仕入価格動向 D.I.は前回 6 月調査で+76 まで上昇したが、今回 9 月調査では 3 ポイント低下し+73 となった。また、12 月の予想については+62 と、さらに 11 ポイント低下する見込みである。コロナ禍による停滞からの経済の急速な回復に伴う需給バランスの崩れによって生じた資源価格高騰と、それによる銅やアルミ、鉄鋼などの市況製品の高騰の影響は最悪期を脱しつつあるとみる。ただし、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う食糧価格の高騰は今後表面化する可能性が高く、今回の調査でも食料品などの業種の業況悪化の背景となっていると考えられる。

他方、販売価格動向 D.I.は、前回 6 月調査の+23 から、今回 9 月調査では+29 となり、さらに 6 ポイント上昇となった。仕入価格動向 D.I.に比べると、水準はなお低いものの、県内の中堅・中小企業においても価格転嫁の動きが続いていることが確認される。なお、販売価格動向 D.I.の 12 月予想については+23 と、9 月実績に対しては 6 ポイント低下する見込みとなっている。予想通りとなれば、販売価格動向についても年末にはピークアウトの兆しが出てくる可能性がある。

仕入価格動向 D.I.と販売価格動向 D.I.の推移(1971 年 7～9 月期～)

D.I.:「上昇」-「下落」、回答社数構成比、季節調整済、%



注: 網掛は神奈川県景気後退局面、1980年以前は国の循環を表示。
各折れ線の右端は、2022年9月調査時点の2022年12月予想。

本資料の目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本資料に記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載した内容は、資料作成時の情報に基づくものであり、その後に予告なく変更されることがあります。